

参考資料：分かち合いの「司会者」の役割を学ぶ

京都教区司教 パウロ大塚喜直

(2006 年12月の教区評議会の研修より)

1. 「分かち合い」のねらい

京都教区が取り組む共同宣教司牧を推進していく歩みの中で、今私たちが最も大切にしなければならないと思うのが、信仰の分かち合いというものです。これまでも、分かち合いの方法やそのルールなどについてお話ししてきました。この3年間「日常からミサを生きる」というテーマに沿って分かち合いを薦めてきましたが、そこには分かち合いの実践によって信仰共同体が、常に自分自身の信仰のあり方やその変化について分かち合い、また共同体の信仰を共に見つめることが、教区全体が福音宣教する共同体となっていくという歩みにとって有効な方法であるという、明確な目的意識があります。

各教会でも、分かち合いの実践は、少しずつその回数を重ねるにつれて、より多くの信徒の方が分かち合いに慣れ親しみ、よりよい分かち合いを目指す習慣が生まれてきているように思います。そんな今、特に気付くことは、よりよい分かち合いのために、「司会者」の役割が重要だということです。

2. 分かち合いでの「司会者」の姿勢と役割

司会者の姿勢と役割は司会者だけでなく、分かち合う参加者全員も司会者の役割を知った上で、分かち合いを行うことが必要です。

① 分かち合いの参加者同士が、同じ立場で分かち合っていることを意識出来るようにする。

司会者は、参加者を高いところから指導したり教えたりするのではなく、同じ信仰者の仲間として、神の前でお互いが、謙遜な姿勢で、分かち合いを通して共感しあうことが出来るようにリードすることが大切です。

② 第一の傾聴者になる。

司会者は、参加者の信仰体験と体験に伴う感情やその人の福音的洞察にまず共感します。分かち合いの内容が質問や問題提起のような場合でも、安易にその人に解決の回答や人間的な示唆を行うことはやめましょう。

③ 発言者の補助と参加者との橋渡しをする。

発言者を、その日の分かち合いのテーマに沿って分かち合うように招き、各参加者の分かち合いの後では、共感する内容を引き出し、参加者が発言者の分かち合いをテーマに沿って受け止めるように助けましょう。

④ 失敗を恐れないこと

分かち合いの時、参加者相互の感受性が平行線であったり、思わぬ小さな傷つきを体験することによってお互いの分かち合いに共感できず、相互に受容することができないこともあるかも知れません。しかしそれらの出来事に対して、正直に対峙し、参加者全員がその状況をお互いに認めることによって、聖霊の働きを信じ、神ご自身がその分かち合いを通して、何かを語っておられるのだという信念を持ちましょう。

3. 参加者の心得

① 発言者として

参加者は、分かち合いの「テーマ」をよく理解した上で、それに沿って正直に自分のことを話しましょう。

② 傾聴者として

発言者の分かち合いを聴く参加者は、自他の違いを意識しながらも、分かち合ってくれる発言者の話を自分のこととして聞きます。共感するように努めます。そして、分かち合いのテーマを通して、信仰の交流が生まれ、そこから一つの信仰共同体体験に繋がっていることを実感出来るように努めましょう。